

三井住友・インド・中国株オープン

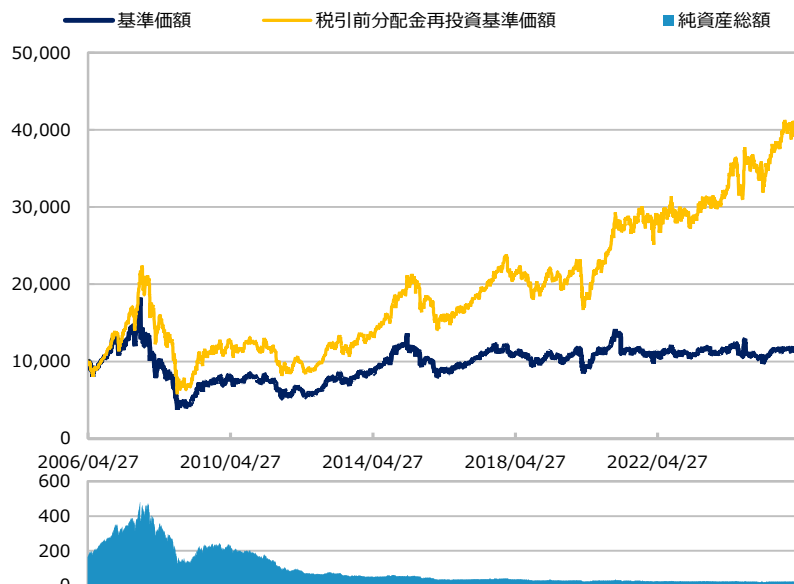
追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

ファンド設定日：2006年04月28日

日経新聞掲載名：印度中国

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	10,800	-960
純資産総額（百万円）	2,035	-190

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2026/02/27	-8.2
3 カ月	2025/12/30	-6.8
6 カ月	2025/09/30	-0.8
1 年	2025/03/31	6.7
3 年	2023/03/31	33.1
設定来	2006/04/28	274.9

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第35期	2023/10/16	500
第36期	2024/04/15	700
第37期	2024/10/15	1,400
第38期	2025/04/15	0
第39期	2025/10/15	600
設定来累計		15,820

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
インド株マザー	45.1	-1.9
中国株マザー	49.7	-0.6
現金等	5.2	+2.5
合計	100.0	0.0

- ※ インド株マザーの正式名称は「インド株マザーファンド」です。
- ※ 中国株マザーの正式名称は「中国利回り株アルファ・マザーファンド」です。

基準価額の変動要因（円）

	寄与額
インド株マザー	-673
中国株マザー	-270
分配金	0
その他	-17
合計	-960

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
 ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

組入投資信託の騰落率 (%)	組入投資信託の騰落率 (%)						当月騰落率 (%)			
	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	-15	-10	-5	0
インド株マザー	-12.2	-13.6	-7.0	-7.7	35.0	296.3	-12.2			
中国株マザー	-4.4	0.8	7.3	26.8	41.5	500.4	-4.4			

ファンドマネージャーコメント

＜運用状況および今後の方針＞

月間を通じて「インド株マザーファンド」および「中国利回り株アルファ・マザーファンド」での運用を行い、3月末の基準価額は、前月末比960円下落の10,800円（月間騰落率は8.2%の下落）となりました。基準価額の主な変動要因としましては、「インド株マザーファンド」が673円のマイナス寄与、「中国利回り株アルファ・マザーファンド」が270円のマイナス寄与となりました。また、3月末の資産構成は、「インド株マザーファンド」45.1%、「中国利回り株アルファ・マザーファンド」49.7%としました。

今後の投資方針としましては、引き続き、両マザーファンドの投資比率は概ね1：1を維持しつつ、全体として高位の組入水準を維持する方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



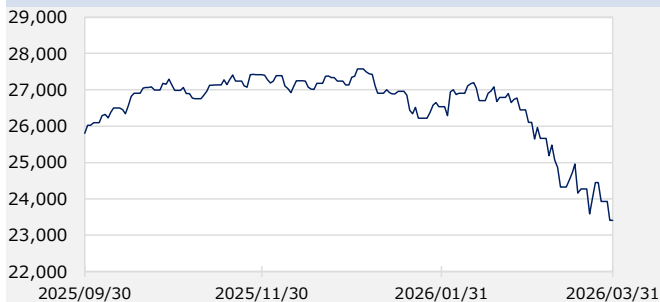
三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

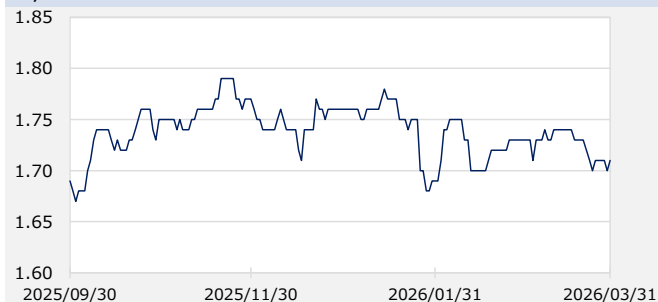
市場動向

インド S&P BSE100インデックス



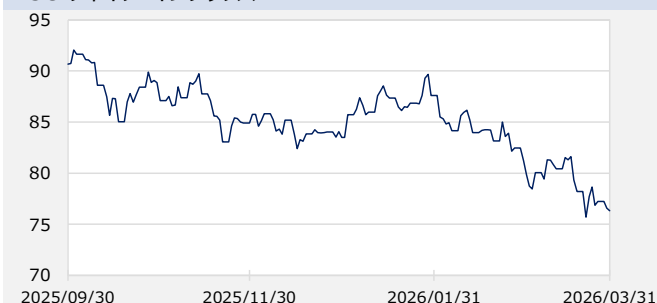
当月末：23,406.4 前月末：26,446.5 騰落率：-11.5%

円/インドルピー（円）



当月末：1.71 前月末：1.73 騰落率：-1.16%

MSCIチャイナ・インデックス



当月騰落率：-7.4%

円/香港ドル（円）



当月末：20.4 前月末：19.9 騰落率：2.5%

- ※ Bloomberg等のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ インデックス等は注記がある場合を除き、原則として現地通貨ベースで表示しています。
- ※ 為替レートは一般社団法人資産運用業協会が発表する仲値（TTM）です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

※ このページは「インド株マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	93.1	-1.5
先物等	0.0	0.0
現金等	6.9	+1.5
合計	100.0	0.0

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 インド	93.1	-1.5

組入上位10業種 (%)

	当月末	前月比
1 銀行	23.9	-1.5
2 素材	13.9	+0.0
3 自動車・自動車部品	10.3	-0.8
4 資本財	10.1	-0.4
5 エネルギー	7.6	+0.7
6 ソフトウェア・サービス	6.6	+0.3
7 金融サービス	3.6	-0.2
8 不動産管理・開発	3.5	-0.2
9 消費者サービス	2.2	-0.2
10 一般消費財・サービス流通・小売り	2.0	-0.0

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 45)

銘柄	国・地域	業種	比率
1 HDFC銀行	インド	銀行	7.7
2 リライアンス・インダストリーズ	インド	エネルギー	7.6
3 ICICI銀行	インド	銀行	6.3
4 インフォシス	インド	ソフトウェア・サービス	5.2
5 ラーセン&トアップロ	インド	資本財	4.2
6 アクシス銀行	インド	銀行	3.7
7 マルチ・スズキ・インド	インド	自動車・自動車部品	3.4
8 インドステイト銀行	インド	銀行	3.1
9 コタック・マヒンドラ銀行	インド	銀行	3.1
10 バジャジ・ファイナンス	インド	金融サービス	2.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

※ このページは「インド株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

3月のインド株式市場は、米国・イスラエルのイラン攻撃をきっかけに、エネルギー危機への脆弱性が強く意識され、大幅に下落しました。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰と、それに伴う外国人投資家の売り越しが相場全体の強い重しとなりました。

上旬は、イランを巡る地政学リスクの台頭により、石油輸入の要であるホルムズ海峡の封鎖懸念が強まり、インド株式市場は下落しました。原油価格の急騰を受け、自動車株などを中心に軟調となりました。主要国による原油備蓄放出の報道や政府のガス供給緊急措置などが下値を支えました。中旬以降は、中東情勢の更なる緊迫化、ホルムズ海峡封鎖の早期解決期待が後退し、原油価格が再度上昇したことなどから、株式市場は下落基調が継続しました。インド政府によるイランとの直接交渉の動きや、ロシアからの輸入拡大の動きなども見られたものの、外国人投資家の売り越しが継続し、インドルピーの急落も加わり、インド株式市場の下落も加速しました。

<運用状況>

3月のインド株マザーファンドの基準価額は下落しました。ポートフォリオの中で上昇した銘柄はケムプラス・サンマー、下落した銘柄は、コルゲート・パルモリーブ（インド）、HDBファイナンシャル・サービスズなどとなりました。ポートフォリオでは、一般消費財・サービス、素材、不動産等をオーバーウェイトとし、生活必需品、ヘルスケアおよびコミュニケーション・サービス等をアンダーウェイトとしました。

<見通しと方針>

中東での紛争は、エネルギー価格の上昇を引き起こし、世界市場全体の不確実性を高めています。原油輸入への依存度が高いインドにとって、短期的に重大な影響があるとみており、エネルギー価格の高止まりは、短期的にインドルピーへの下押し圧力となる可能性もあります。一方で、外部ショックに対するインドのマクロ経済の耐性は、過去の石油ショック時と比較して大幅に強化されています。RBI（インド準備銀行）による介入、潤沢な外貨準備高、そしてマクロ経済の安定性向上により、リスクは抑制される見込みです。企業のファンダメンタルズ（基礎的条件）は引き続き健全であるとみられます。国内の機関投資家や個人投資家は、足元の地政学的不確実性を一時的な混乱と捉え、引き続き市場を安定させる重要な役割を果たしています。リスク要因には引き続き警戒が必要なものの、国内のマクロ環境が堅調で、バリュエーション（投資価値評価）がより合理的な水準にある中、選別的な超過収益獲得の好機を迎えているとみており、グローバルな資本ローテーションが新興国市場全体への投資を後押しする局面では、恩恵を受ける可能性があります。インドのような成長市場で超過収益を創出

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

※ このページは「インド株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

するには、現地における精緻なリサーチやボトムアップの銘柄選定が重要であるとみています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

※ このページは「インド株マザーファンド」の情報を記載しています。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 45）

銘柄	国・地域/業種	比率	コメント
1	HDFC銀行 インド 銀行	7.7	インドで最初に認可された民間銀行の一つ。住宅ローンに強み。コーポレートバンキング業務、カスタディ業務のほか、資本市場業務も手掛ける。
2	リライアンス・インダストリーズ インド エネルギー	7.6	インドのコングロマリット。主力の石油精製やポリエチレン、ポリプロピレンなどの石油化学製品の製造から、小売や通信などに多角化を進め、小売、通信分野でも大手となっている。各事業の拡大成長が見込まれる。
3	ICICI銀行 インド 銀行	6.3	インドの大手銀行。傘下に保険、証券やアセットマネジメントなどの子会社を擁し、総合的な金融サービスを提供する。デジタル・インフラ投資に注力し、低コストでの新規顧客の獲得や各種金融商品・サービスを効率的に提供することで収益及び利益率の拡大が見込まれる。
4	インフォシス インド ソフトウェア・サービス	5.2	インドのバンガロールに本社を置く世界有数のITコンサルティング・アウトソーシング・ソフトウェア開発企業。複数のグローバルIT企業と提携し、ITコンサルティングおよびソフトウェアのサービス等を提供する。
5	ラーセン&トプロ インド 資本財	4.2	インドを代表する建設・重電メーカー。大規模な建設プロジェクトを請け負う。主な製品およびプロジェクトには、ブルドーザー、酪農機械、化学品・医薬品製造プラント、食品加工機械、飼料工場などがある。
6	アクシス銀行 インド 銀行	3.7	1993年にインドで最初に設立された大手民間銀行の一つ。大企業から中小企業、個人に至るまで幅広い分野で金融サービスを提供。
7	マルチ・スズキ・インディア インド 自動車・自動車部品	3.4	1981年にインド政府とスズキの間で設立された自動車メーカー。2000年台前半に出資比率を引き上げスズキが子会社化。インドで最大の販売シェアを誇る。
8	インドステイト銀行 インド 銀行	3.1	インド政府が過半数の株式を有するインド最大の国営商業銀行。インド国内の企業、公的機関ならびに個人客に対し幅広い銀行業務、金融サービスを提供する。
9	コタック・マヒンドラ銀行 インド 銀行	3.1	コタック・マヒンドラグループの中核銀行。傘下に資産運用会社、投資銀行、証券会社を抱える金融コングロマリットで、インドや海外でサービスを提供。
10	バジャジ・ファイナンス インド 金融サービス	2.8	インドのバジャジ・グループの消費者金融会社。金融持ち株会社であるバジャジ・フィンサーブが筆頭株主。インド国内で個人向け、ビジネス向けローン・サービスを提供する。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

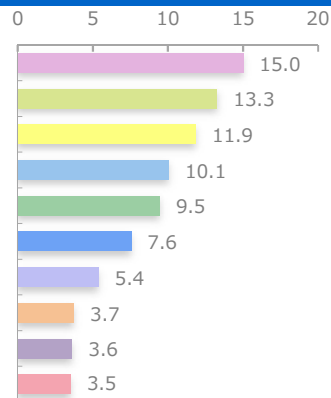
※ このページは「中国利回り株アルファ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	95.0	+1.8
H株	29.9	-4.3
レッドチップ	16.2	+0.6
香港その他	32.3	+4.5
上海・深センA株	16.6	+1.1
上海・深センB株	0.0	0.0
その他	0.0	0.0
リート	0.0	0.0
A株連動債券	0.0	0.0
先物等	0.0	0.0
現金等	5.0	-1.8
合計	100.0	0.0

組入上位10業種 (%)

	当月末	前月比
1 耐久消費財・アパレル	15.0	-0.9
2 銀行	13.3	+1.9
3 食品・飲料・タバコ	11.9	+1.6
4 保険	10.1	-1.1
5 資本財	9.5	-3.7
6 一般消費財・サービス流通・小売り	7.6	+4.8
7 医薬品・バイオテクノロジー	5.4	+1.0
8 金融サービス	3.7	+0.1
9 メディア・娯楽	3.6	+0.8
10 運輸	3.5	-1.3



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 31)

	銘柄	市場	業種	比率
1	中国建設銀行	H株	銀行	6.9
2	招商銀行	H株	銀行	6.4
3	万洲国際	香港	食品・飲料・タバコ	6.1
4	JDドットコム	香港	一般消費財・サービス流通・小売り	5.0
5	平安保険	H株	保険	4.3
6	中国人民財産保険	H株	保険	4.1
7	申洲国際ホールディング	香港	耐久消費財・アパレル	3.8
8	BOCアビエーション	レッドチップ	資本財	3.8
9	内蒙古伊利実業集団	上海A株	食品・飲料・タバコ	3.8
10	ファー・イースト・ホライゾン	レッドチップ	金融サービス	3.7

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

※ このページは「中国利回り株アルファ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場概況>

香港株式市場（中国関連株）は下落しました。

3月前半に開催された全人代（全国人民代表大会、国会に相当）で、2026年の実質成長率4.5~5%とした目標が保守的とみられたほか、中東における紛争を受けた世界経済の減速懸念を背景に、中国の輸出や経済成長の見通し悪化が警戒されました。また、香港政府が2月下旬に高価格帯の住宅不動産取引に対する印紙税率の引き上げを発表したことなどから、不動産関連銘柄が軟調に推移しました。

<運用状況>

引き続き、配当利回りや成長性、流動性等を考慮した運用を行いました。

3月は、当局の競争環境改善に向けた指導により、フードデリバリー事業での収益性改善が期待できるJDドットコムを購入しました。一方、中国通信大手の設備投資減少による売上成長の抑制や、地方政府の財政難に伴う売掛債権の回収リスクの高まりを見込み、通信インフラ会社の中国通信サービスを売却しました。

<市場見通しと今後の運用方針>

世界の株式市場は、トランプ大統領による強硬的な政策姿勢に対して国際的な不信感が高まっており、相場の波乱要因となっています。また、エネルギー価格の上昇も経済活動に対する懸念材料です。ただし、ホルムズ海峡の安全確保などに伴いインフレ懸念が一時的なものとなれば、金融財政政策の発動余地は残っています。年央に向かって、財政投入による景気押し上げ効果に加えて、企業業績の堅調さが続くとの見方から、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

香港など中国の株式市場は、米中の貿易協議を巡る不透明感や中東における紛争などがリスク要因として残ります。一方、テクノロジー産業への投資や生産拡大が景気を下支えしていることから、底堅い推移が見込まれ、また中国人民銀行（中央銀行）による金融緩和の継続や政府による消費刺激策などの政策的支援、新興国向けを中心とした底堅い輸出などが中国景気を下支えするとみられる点も、株式市場の支援材料となります。

今後の運用方針としましては、引き続き、配当利回りや成長性、流動性等を考慮しつつ、厳選投資する方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

※ このページは「中国利回り株アルファ・マザーファンド」の情報を記載しています。

組入上位10銘柄（％） （組入銘柄数 31）

銘柄	市場/業種	比率	コメント
1	中国建設銀行 H株 銀行	6.9	2005年に中国の4大国有商業銀行で初めて香港市場に上場した。主に企業、個人向けに貸出、資産運用などの総合金融サービスを提供するが、中でもインフラ融資分野に強みを持つ。
2	招商銀行 H株 銀行	6.4	広東省深セン市に本拠を置く中国の中堅商業銀行。都市部でのリテール網を強みに、多様なサービスを提供。預金調達コストが低いことも強味。
3	万洲国際 香港 食品・飲料・タバコ	6.1	中国と米国を中心に養豚や生鮮豚肉、加工肉など肉製品の生産・販売を手掛ける。豚肉生産コストの低い米国から大消費地の中国に輸出する事業モデルを強みとしている。
4	JDドットコム 香港 一般消費財・サービス流通・小売り	5.0	中国のネット通販大手。直販主体の事業展開で、「偽物」の取扱いが極めて低い。輸送・配送も自前で手掛ける。中国のインターネットサービス大手の「テンセント」や米小売り大手の「ウォルマート・ストアーズ」が出資している。
5	平安保険 H株 保険	4.3	1988年に深セン市で創業した民営企業であり、主に生命保険事業のほか、損害保険、銀行事業も手掛ける。フィンテックやヘルスケア事業にも積極的に投資しており、次の成長の柱として期待される。
6	中国人民財産保険 H株 保険	4.1	中国の損害保険大手。自動車をはじめ各種賠償責任、傷害・医療、貨物、農業など幅広い損害保険サービスを手掛ける。中国全土に保有する広範な販売ネットワークが強み。
7	申洲国際ホールディング 香港 耐久消費財・アパレル	3.8	スポーツウェアやカジュアルウェアのメーカーで、ナイキ、アディダス、プーマ、ユニクロなど世界中に顧客を持つ。当社は環境に配慮した繊維の使用や古着のリサイクルを強化しており、消費者の意識の高まりとともに単価の上昇と利益率の向上が見込まれる。
8	BOCアビエーション レッドチップ 資本財	3.8	航空機リース事業に特化したシンガポール企業。世界の航空需要の拡大を追い風に、また大株主である中国銀行（政府系銀行大手）の信用力を背景に業績を拡大させている。
9	内蒙古伊利実業集団 上海A株 食品・飲料・タバコ	3.8	中国の乳製品大手。自社管理による強固な生乳サプライチェーンと持続的な製品イノベーション能力が強み。付加価値の高い粉ミルクや冷菓の販売拡大に加え、機能性タンパク質など乳製品の加工分野を新たな成長事業として拡大している。
10	ファー・イースト・ホライゾン レッドチップ 金融サービス	3.7	中国のリース大手。顧客はヘルスケアや教育、建設、運輸、機械、繊維業界など幅広い。中国国内で民営病院の運営も手掛ける。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

ファンドの特色

1. インドおよび中国の取引所に上場している株式に投資し、信託財産の成長を目指します。
実際の運用は、インド株マザーファンドおよび中国利回り株アルファ・マザーファンドを通じて行います。
 - ・インド株マザーファンドの運用にあたっては、アムンディ・ジャパン株式会社の投資助言を受けます。
 - ・中国利回り株アルファ・マザーファンドの運用にあたっては、スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッドに運用の指図に関する権限の一部を委託します。
 2. インド株と中国株の実質投資割合は、概ね同程度とします。
 3. 実質組入れ外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。
ただし、基準価額に重大な影響を与えると判断される政治・経済、金融情勢が生じた場合は、弾力的に対応します。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

投資リスク

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】
有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2006年4月28日設定）

決算日

毎年4月、10月の15日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- インドの取引所の休業日
- 香港の取引所の休業日
- ルクセンブルグの銀行の休業日



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.30%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.606%（税抜き1.46%）**の率を乗じた額です。
※インド株マザーファンドが投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、**年2.006%（税抜き1.86%）程度**となります（基本資産配分比率による試算）（別途、管理費用や保管に要する費用がかかります。）。ただし、投資対象とする投資信託の運用管理費用は、料率が把握できる費用の合計であり、上記以外の費用がかかる場合があります。また、年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回る場合があります。
上記の料率は、2025年10月末現在で知り得る情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ：https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	資産運用業協会	一般社団法人	金融先物取引業協会	一般社団法人	日本S T O 協会	備考
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	○	○	○	※1 ※2
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○	○	○	○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○	○			※1
立花証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第110号	○				○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号	○	○						※1
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第24号	○	○						
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○				○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○	○	○	○	
三菱 U F J e スマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	○	○	○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第105号	○	○						
明和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第185号	○							※1
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1771号	○							※1
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○	○	○	
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第199号	○							
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○							※3
株式会社 S B I 新生銀行（S B I 証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○				○			※4 ※5
株式会社 S B I 新生銀行（マネックス証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○				○			※4 ※3

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしていません。※2：「ダイレクトコース」でのお取扱いとなります。※3：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社※4：ネット専用※5：委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友・インド・中国株オープン

追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年03月31日

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

